

特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr.306

Juni 2016

NPO 法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE

GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

神戸日独協会2016年度通常総会について

NPO 法人神戸日独協会は、2016年5月14日(土)にユーハイム神戸元町本店ホールにて2016年度通常総会を開催しました。

総会には40名の会員が出席され、諸議事の審議が行われました。この総会では3名の新理事が承認され、役職交代による3名の理事の交代が報告されました。

総会直後に理事会を開催し、定款に従い理事の互選により柘田義一理事が会長に選出されました。

総会に引き続き同ホールにて会員懇親会が開かれ、ユーハイムさんの心のこもったお料理を堪能しながら、ご参加の会員皆様の間で和やかな懇談が予定の時間を超えて行われました。

ドイツ語講座・ドイツ文化教室2016年度第Ⅱ期開講

7月4日(月)よりドイツ語講座・ドイツ文化教室の2016年度第Ⅱ期が開講します。

ドイツ語講座の「標準クラス」と「会話クラス」は、ヨーロッパで通用する「EU言語標準」としてのドイツ語の習得を目的としています。「EU言語標準」としてのドイツ語の教授経験が豊富な講師陣が講座を通じて「今のドイツ」へと誘います。夏休みにドイツ語圏への旅行を計画している方は、現地でドイツ語での会話を楽しむために、講座でドイツ語による日常会話を習得をしませんか。

「ドイツで今何が起きているのか」、「今の日本をドイツはどのように見ているのか」を知りたい方、ドイツ文学の名作をじっくりと読んでみたい方には「講読クラス」がおすすめです。

ドイツ語講座とドイツ文化教室の多くのクラスは前期からの継続クラスですが、途中からの受講は可能です。各クラスの内容については、同封の案内チラシをご覧ください。

今年の暑い夏は、駅からも近く涼しい教室で「ドイツ体験」をしてみませんか。

「初夏の遠足」のご案内

ドイツの住居の居心地の良さに触れる旅

神戸日独協会法人会員のオスモ&エーデル株式会社様からの「ドイツの家のお話」についてのご提案があり、そのご提案に沿ってバス旅行を行います。三田市の同社のモデルハウス展示場で、伝統的に居心地の良さで知られる「ドイツの家」のモデルハウスを見学した後、三木市の本社ショールームに移動して「ドイツの家」のお話を聞き、ショールームを見学していただきます。その後はワインパーティーでドイツワインを楽しんでいただきます。三宮からの往復は中型バスで送迎していただきます。ドイツの住宅の住み心地の良さを学ぶ良い機会かと思っておりますので、是非、多数の方々に参加していただくようご案内いたします。

日 時： 6月25日(土)

行 先： ドイツ村モデルハウス(三田市)、オスモ&エーデル本社ショールーム(三木市)

集合場所： JR三ノ宮駅中央口の三ノ宮ターミナルホテル前

集合時間： 12時45分(時間厳守願います。)

出発場所： サンサイドホテル前

出発時間： 13時

解散場所： 出発場所に同じ

解散時間： 18時予定

参加費： 会員、一般とも1,000円

※ ただし一般の方は会員と一緒に参加される場合にのみ参加いただきます。

定 員： 26名 (定員になり次第締め切らせていただきます。)

申し込み： 6月22日(水)までに神戸日独協会事務局へご連絡ください。

GJGとの共同企画

「神戸市立外国人墓地」見学会

1868年1月の兵庫開港以来神戸を中心に活動をした多くのドイツ人がこの外国人墓地に埋葬され、永遠の眠りについていきます。神戸日独協会は、「神戸開港150周年」を機に神戸で活動をしたドイツ人と地域との交流の足跡を今日的なグローバルな観点から今一度辿り、神戸とドイツとの交流の特質を明らかにして、これからの交流の将来像を考えたいと思っています。

この度一般公開とは別にガイド付きで墓地を見学する機会を得ることができました。この機会にGJGと共同で、多くのドイツの若者と一緒に、歴史的遺産である緑豊かな森の中の「外国人墓地」の見学会を企画しました。多くの方のご参加をお待ちしています。

日 時: 2016年7月3日(土)

場 所: 神戸市立外国人墓地(六甲山再度公園内)

日 程: 12:20 三宮バスターミナル(ミント神戸1階)集合

12:40 市バス25系統「森林公園行」乗車

13:10頃 「再度公園」下車

13:30~14:50 外国人墓地見学

15:35 市バス25系統「三宮バスターミナル行」乗車

16:05頃 三宮バスターミナル到着、解散

費 用: バス代(往復)840円

定 員: 20名(定員になり次第締め切ります)

申 込: 6月30日(木)までに神戸日独協会事務室へご連絡ください。

※六甲山中ですので、当日は軽装で日除けの準備をして、ご参加ください。

なお、見学会終了後に協会会議室にて軽食を取りながら「日独若者の交流」についての懇談会を行います。参加ご希望の方は、準備の都合上、申込時に「懇談会」参加をもちご連絡ください。

JDG Kobe und GJG

Führung durch den Ausländerfriedhof von Kobe

Viele der Ausländer, die seit der Öffnung des Hafens Hyogo im Januar 1868 nach Kobe kamen und hier wirkten, haben ihre letzte Ruhestätte am Ausländerfriedhof der Stadt gefunden. Das 150-Jahr Jubiläum der Hafenöffnung bietet Anlass, den Spuren der Deutschen unter ihnen, insbesondere deren Beziehungen zur Stadt Kobe nachzugehen, und diese von einem heutigen, globalen Standpunkt auch mit Blick in die Zukunft zu überdenken

Die Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Zusammenarbeit mit der GJG (Gruppe der jungen Generation) bekommt bei dem geplanten Besuch eine Führung durch den Friedhof, der inmitten der reichen Natur am Berg Rokko einen bedeutenden historischen Platz für Kobe darstellt. Wir hoffen, dass sich viele Interessierte zu dieser Führung finden, zu der wir auch Jugendliche aus dem deutschsprachigen Raum eingeladen haben.

Zeit: 3. Juli 2016 (Samstag)

Ort: Ausländerfriedhof Kobe (Futatabi-Park, Berg Rokko)

Treffpunkt: 12.20: Uhr Sannomiya Bus-Terminal (Mint Kobe)
12.40: Fahrt mit dem Bus Nr.25 Richtung Shinrin-koen
ca. 13:10: Ausstieg an der Haltestelle Futatabi-koen.
13.30 bis 14.50: Besuch des Ausländerfriedhofs.
15.35: Rückfahrt mit dem Bus Nr.25 Richtung Bus-Terminal Sannomiya
ca. 16.05: Ankunft in Sannomiya.

Kosten: 840 Yen (Busfahrt hin und zurück)

Teilnehmerzahl: 20 Personen.

Anmeldung bis zum 30. Juni bei der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kobe.

(Achten Sie bitte auf für die Wege in der Natur geeignete Kleidung und Sonnenschutz.)

Nach Ende der Veranstaltung gibt es im Raum der Gesellschaft eine Gesprächsrunde zum Thema „Austausch zwischen japanischen und deutschen Jugendlichen“. Kleine Snacks und Erfrischungen werden vorbereitet. Bitte geben Sie bei der Anmeldung zum Besuch des Ausländerfriedhofs an, ob Sie auch an dieser Veranstaltung teilnehmen werden.

ドイツ文化サロン

「女性が支える国際交流」

第11回 『気がつけば、ドイツ菓子とオペラ』

- ・講師: 押尾 愛子さん(1977~2014年、株ユーハイム勤務)
京都大学文学部独文専攻卒業後、株ユーハイムに入社。1977年5月から3年間ユーハイム・ドイツ店(フランクフルト)に勤務。お菓子とオペラに夢中になり、帰国後は洋菓子の知識をいかして企画開発室に勤務。後に神戸本社に転勤、2014年退職。
著書: 『お菓子の国から』『オペラワンダーランド』『朝比奈隆のオペラの時代』
- ・日時: 2016年6月21日(火)14:00~16:00 (開場 13:45)
- ・会場: ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)
- ・会費: 会員および家族 1300円、非会員 1500円 (ケーキと飲物代)
当日受付にて支払ください。
- ・申込: 6月20日(月)までに事務室へメール・電話・ファックスでお申し込みください。

第10回 『国際交流 ～現在進行形～ 』

- ・講師： Sung Kwang-Hye(成 光恵)さん(尼崎市嘱託員 国際交流担当)
- ・日時： 2016年5月27日(金)18:00～20:00
- ・会場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

『国際交流～現在進行形』の感想

会員 栞田 節子

ドイツ文化サロン『女性が支える国際交流』第10回は、尼崎市の国際交流をご担当の Sung Kwang-Hye (成 光恵)さんの日本とドイツでの音楽修業体験そして国際交流のお仕事についてお話を伺いました。

最初に、光恵さんは兵庫県で生まれ育たれましたが韓国籍のために、これまでドイツへ入国する時や留学する時等にはいつも公式書類取得等で大変ご苦労されたこととお話しされました。

1980年代初めてドイツ・イタリアでの音楽コンクールに参加されるためには再入国許可証・入国ビザが必要で、各々神戸・東京に申請に行かなければなりませんでした。ドイツ留学中の1991年に韓国が国連加盟後は、朝鮮⇒韓国となりパスポート取得が必要となり、在独/在日韓国大使館では前例がないためにパスポート取得には長い時間を要したとのこと。その後、大学教授から国費留学(DAAD)を勧められましたが自国民(日本人)ではなく在日韓国人であるとの理由から断念し私費留学をされた経緯もお話し下さいました。

幼少時からピアノを習っていた光恵さんは、高校では音楽科ピアノを専攻し、音楽大学に進まれピアノを専修されました。第2外国語にドイツ語を選択し、『ドイツリート』に出会いその素晴らしさに魅了され、ドイツ語の修得そしてドイツに関する情報を得るためにゲーティンスティテュートにも通われました。大学卒業後もピアノの研鑽を継続して積まれて種々の国際コンクールへの参加、そして東ドイツ・ワイマールでの夏期講習会への参加。この講習会では女子学生寮に2週間宿泊、そこでは10人が1つのトイレと1つのシャワーを共有、食事の黒パン等お世辞にも美味しいとは言えないものだったそうです。外国人専用の『インターショップ・レストラン』があり、そこには自国民である東ドイツ人は使用できないとの現実に理不尽さを感じられたとのこと。ミュンヘン音楽大学大学院マイスタークラスそしてその後のミュンヘン大学時代当時、テレビでは毎日亡命者に関するニュースの時間がありチェコからの経済亡命者等の報道があったそうです。1989年ベルリンの壁が崩壊した時には難民や外国人排斥等があり、安全にピアノレッスンに通うために運転免許証を取得し車で通われたとのこと。その間、ドイツ人にピアノの家庭教師、1992年のミュンヘンサミットでは日本人ジャーナリストのお世話係もされました。

帰国後は、これまでの経験を踏まえ今後は社会貢献したいとの思いから、尼崎市役所で国際交流をご担当されています。お仕事の中には40年以上継続する姉妹都市アウグスブルク市への青年使節団派遣事業があり、アウグスブルク市との種々の折衝に加えて、参加者達の事前事後の対応もされています。そして今後もこの事業の継続に尽力をするとともに、後継者の育成をも行うとのことでした。お話を伺い、事業を長く継続することの難しさを実感しました。

光恵さんは、これまで特に困難に感じたことはないと言われましたが、いつも「無理をせず」にご家族やご友人等の温かい支えに感謝され、様々な課題を乗り越えてこられ、大きな成果を挙げられてきたことに納得しました。何事にも前向きに情熱を持って真摯に対処される姿勢に、私ども参加者は元気と力をいっぱいいただきました。光恵さん、本当にありがとうございました。

日独若者の「神戸再発見」

„Kobe neu entdeckt“

第 30 回 あじさい / 30. Treffen: Hortensien

もう梅雨の季節ですね。一緒に森林植物園へあじさいを見に行きませんか？

Die Regenzeit hat begonnen. Dies ist im Botanischen Garten von Rokko die Zeit der Hortensien.

■日にち／Zeit:

2016年6月18日（土） / Samstag 18. Juni 2016

■場所／Ort :

神戸市立森林植物園 / Kobe Municipal Arboretum

■集合／Treffpunkt A:

A. 15 : 00 神戸市立森林植物園 正門

/ Kobe Municipal Arboretum Haupteingang

※ アクセス: <https://www.kobe-park.or.jp/shinrin/contents/train-bus/>

または/oder Treffpunkt B:

B. 13 : 50 三の宮バスターミナル(ミント神戸 1F バスターミナル 4 番のりば)

/Sannomiya ZOB (Bushaltestelle 4, im Erdgeschoss von Mint Kobe)

※14:10 のバスに乗ります(片道 550 円)

/ Busabfahrt 14:10

Fahrtkosten (eine Fahrt): 550 Yen

■入園料／Eintritt: 300 円/Yen

■申込／Anmeldung:

2016年6月16日(木)までに／Bis Donnerstag 16. Juni 2016

Tel: 078-230-8150 E-mail : info@jdg-kobe.org

※AとBどちらの集合場所に来られるかを必ずお知らせください。

Sagen Sie bitte Bescheid, ob Sie direkt zum botanischen Garten kommen (Treffpunkt A) oder zum Treffpunkt am Busbahnhof von Sannomiya (Treffpunkt B)!

ドイツ語談話室

第150回ドイツ語談話室

日時：2016年5月21日(土) 14時-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：日本とドイツでの住宅事情

今回の司会は原田耕作氏が担当し、日本人は、自身も含め、住宅を所有する事への強い願望をもっていることを話した。それに比べ、ドイツはじめヨーロッパでは、所有より賃借を選ぶ人が多いようだ。次に、参加者から、ドイツ・日本に於ける住宅事情についての発言があった。その一部を下記に紹介する。

—統計によると、現在日本の木造住宅の平均耐用年数は29年と短く、新築建設の需要が GDP のかさ上げ効果に貢献している。

—日本列島には無数の活断層が存在しており、記録に残る679年以降でも M7以上の大地震が、熊本を含め27回発生している。比較的柔軟性のある伝統的木造建築でも、被害は免れ切れない。伊勢神宮他の遷宮も、一定年数毎に建て替えをして保全をする日本の知恵と言える。

—ドイツでは、住宅のリノベーションが絶えず行われ、各家庭が美しい住宅の保全の努力している。この自分の住宅に対する愛着や家を大切にする意気込みは、日本とは比較にならない。

—現在日本で問題の住宅事情の一つに、古い家が放置され空き家が増えていることがある。古い親の家を、特に地方で、子供達が継ごうとしない為、放置されて空き家となるケースが多い。

—ドイツで家は、家族がゆったり寛げる場であり、建物と庭を大切に手入れし、家族生活を楽しむ中心となっている。日本の家は小さい事もあるが、家族がそこで寛ぐ生活スタイルは少なく、駅に近い、買い物に便利、と言った利便性が重要視される。ライフスタイルがまるで違う。

—日本には、町や市のきちんとした街並計画の伝統がなく、てんでバラバラな住宅地区が多い。ドイツでは、小さな町でも、公共の施設や住宅が一定の計画で作られ、美しい街並みが多い。

—日本の街並が美しくできない理由の一つに、個人の土地所有の権利が非常に強く、公共性が弱い事がある。

—気候の関係があるが、日本の家屋は簡素な木造が多く、建設費もとても安い。ドイツでは、堅固な地下室から断熱性能が高い壁や窓が必要で、建設費もとても高い。若い人が簡単に買えない。

—ドイツでは、特に若い人が共同で住む住宅、Wohngemeinschaft がよく見られる。日本でも最近出来てきている。特に老人のグループホームが出来てきた。

—日本の共同住宅(所謂、マンション)には、凄い名前が付けられている。シャトー(城館)、パラス(王宮)、パレ(宮殿)、等々。

今後のドイツ語談話室の予定

第151回 6月18日(土) 14-16時 テーマ：私の好きなドイツの言葉

第152回 7月16日(土) 14-16時 テーマ：新・旧の通信手段

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 150. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 21. Mai 2016 14 bis 16 Uhr

Thema: Wohnverhältnisse in Japan und in Deutschland

Dieses Mal hatte Herr Kosaku Harada die Gesprächsleitung und sprach davon, dass viele Japaner, und das trifft auch auf ihn selbst zu, den starken Wunsch hegen, ein eigenes Haus zu besitzen. Indessen entscheiden sich viele Deutsche und überhaupt Europäer oft dafür, Wohnungen zu mieten statt zu kaufen. Von den Teilnehmerinnen und Teilnehmern kamen folgende Wortmeldungen:

-Ein Teilnehmer berichtete, dass nach einer Statistik die durchschnittliche Nutzungsdauer eines japanischen Holzhauses nur 29 Jahre ist. Der Bedarf an Neubauten trägt somit wesentlich zum BIP bei.

-Ein anderer Teilnehmer führte an, dass es überall in Japan zahlreiche aktive Erdbebenlinien gibt. Seit der schriftlichen Erfassung von Erdbeben beginnend im Jahr 679 lassen sich 27 riesige Erdbeben mit einer Stärke von über M7 nachweisen. Obwohl der traditionelle japanische Holzbau gegenüber Erdbeben relativ resistent ist, lassen sich Schäden nicht vermeiden. Darin, dass Schreine wie der große Schrein von Ise in bestimmten Abständen von 20 bis 50 Jahren identisch neu errichtet werden, verbirgt sich eine japanische Weisheit, in diesem Land Gebäude zu erhalten.

-Eine Teilnehmerin bemerkte, dass in Deutschland Häuser öfter renoviert werden, oft um das Haus immer schöner zu machen. Mit dieser Lust und Liebe der Deutschen, ihre Wohnungen zu verschönern, kann Japan nicht mithalten.

-Eine andere Teilnehmerin berichtete, dass die Zunahme leerstehender Häuser für Japan jetzt ein Problem darstellt. Viele Kinder möchten das Haus ihrer Eltern nicht übernehmen. Besonders auf dem Land werden vermehrt Häuser leer stehengelassen.

-Ein Teilnehmer hat den Eindruck, dass das Haus in Deutschland der Ort ist, wo die ganze Familie gemütlich das Leben verbringen soll, Haus und Garten sind dazu da, das Leben zu genießen. In Japan legt man eher Wert auf bequeme Lage in der Nähe eines Bahnhofs oder Einkaufszentrums usw.. Die Gemütlichkeit des Familienlebens steht in den meist auch oft kleineren japanischen Häusern nicht so im Mittelpunkt. Der Lebensstil ist diesbezüglich sehr unterschiedlich.

-Ein anderer Teilnehmer findet, dass die Stadtplanung in Japan nicht streng durchgeführt wird. Gebäude werden durchwegs ohne Ordnung errichtet, es ergibt sich ein eher chaotisches Stadtbild. In Deutschland sind sogar in kleineren Städten alle Häuser und Einrichtungen unter Befolgung bestimmter Stadtplanungsrichtlinien

gebaut. Das Stadtbild zeigt sich schön und geordnet.

-Ein Teilnehmer denkt, dass das Eigentumsrecht ein Grund für diese stadtbauliche Situation in Japan ist. Das private Eigentumsrecht in Japan ist wirkungskräftiger als das öffentliche.

-Ein anderer Teilnehmer denkt, dass dank dem milden Klima das japanische Holzhaus einfacher konstruiert und sehr billig gebaut werden kann. In Deutschland braucht man einen soliden Keller, dicke, isolierte Wände und Fenster usw.. Die Baukosten sind deshalb hoch und besonders für junge Menschen schwer erschwinglich.

-Eine Teilnehmerin sprach davon, dass in Deutschland unter den jungen Menschen Wohngemeinschaften populär sind. Auch in Japan kommen Wohngemeinschaften neuerdings in Mode allerdings unter älteren Menschen.

-Ein Teilnehmer erwähnte die Tendenz in Japan, privaten Apartmenthäusern ziemlich erstaunliche Namen zu geben, wie „Chateau“, „Palace“, „Palais“, usw..

Nächste Treffen:

Samstag 18. Juni 2016, 14 bis 16 Uhr Thema: Mein liebstes deutsches Wort

Samstag 16. Juli 2016, 14 bis 16 Uhr Thema: Alte und Neue Kommunikationsmittel

「シュタムティッシュ」

「シュタムティッシュ」へご参加ください

今年4月から若干モデルチェンジして以下の要領で再スタートしました。

1、テーマ:

会報で次回テーマを告知し、そのテーマについてよく知っている方だけでなく、そのテーマについてほとんど知らないが強い関心がある方等、いろいろな方々に参加していただき、参加者全員で懇談、意見交換していただき、そのテーマについて理解を深めていければと思います。

人によっては、今後の趣味の選択や研究テーマ? の設定の参考になればよいですし、テーマがドイツの町や村であれば将来旅行や留学先を選ぶ参考にして頂ければ幸いです。

以前は、会の前半に、予めお願いした方にテーマに沿って講演していただいた後、懇談していましたが、この度は、講演なしで最初から全員で懇談していただきます。

テーマのジャンルは様々で、ベートーベン、バッハ、ブラームス等の作曲家や、ミュンヘン、ハイデルベルク、ローテンブルク、ドレーズデン等日本人に人気のある街をはじめ、単に美しいだけでなく歴史上や経済活動等で重要な役目を担ってきた町や村、作家や文学作品、その他ブンデスリーグやブンデスリーガー等々も取り上げることができればと思っています。

2、場 所:

神戸日独協会会議室

できるだけ色々な方に参加してもらえよう、場所は協会会議室で行います。

3、日 時:

原則として毎月第4土曜日 15時から17時

4月のシュタムティッシュ感想文

2016. 4. 28 堀野 晃生

そんなに難しい話は出てこないだろうと思い参加した。思ったより楽しい会合で有った。青春時代にシュタイナー学校の講師を目指された方の話。1950年代に駐在された方の話。ドイツ人から st, sp の発音を注意されたとのこと。最近ハンブルク港湾事情を視察された方の話。日本の北前船と比較しながら、北ヨーロッパでのハンザ同盟都市の活動状況が詳しく説明された。また、ドイツから北米への移民団が利用した移民船が博物館となり、ホテルとなっているらしい。

私は資料を持参していなかったが、二つ紹介したい。近年平和活動として戦争の爪痕を訪れる旅がなされる。ハンブルクにも有名ではないが一つある。ハンブルク州ベルゲドルフの近くのエルベ河(Dove Elbe)に沿ったところにKZ Gedenkstaette Neuengammeがある。ユダヤ人強制収容所跡である。施設で使用されたユニフォームや食器などが丁寧に陳列され、詳しく説明されている。あまり触れたくないと思うが、忘れてはならないというドイツ人の意思が伝わる。

最近神戸でもトラックの胴体に大きな文字でHamburgSuedと書かれたコンテナ運送車が走っている。これはハンブルクのOetkerグループの船会社のトラックである。多分加工食品などを運んでいるものと思う。今では市内でもザワアークラウトなどこの会社製造の食料品を買うことができる。我々の生活環境はここまでグローバル化して来た。ハンブルクは近くなっている。

(この感想文は5月号の会報に掲載予定でしたが、今月号の掲載となりました。)

行事参加感想

シュレスヴィヒ・ホルシュタイン独日協会会長の歓迎会に参加して

会員 永丘 恵子

5月13日(金)に、西村屋ダイニングにおいてシュレスヴィヒ・ホルシュタイン独日協会のキーフマン会長の歓迎会が催されました。キールのフンボルトシューレの校長フォルベーア女史も同行され、神戸日独協会からは柘田会長をはじめとして会員18名が参加して、美味しい昼食を頂きながらの和気藹々とした歓迎会となりました。

私は、今回初めて神戸日独協会の行事に参加させて頂き、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州と兵庫県は平成9年に友好提携を結び、提携15周年にあたる平成24年に、兵庫県から井戸知事を始め神戸日独協会の会員の方々がシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州を訪問し、逆に今年はシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州のアルビツヒ首相率いる代表団が兵庫県を訪問されたとの経緯を知りました。

さて、キーフマン会長はいかにもドイツ人らしく、ビールがお好きなのではと想像してしまう恰幅のいい方でした。お話するととても気さくで、日本語が話せないのが残念だとおっしゃっていました。フンボルトシューレのフォルベアー校長先生は、背のすらっとした優しい感じの方で、今回はフンボルトシューレと芦屋にある兵庫県立国際高等学校との姉妹校提携の更新をしに来られたとのことでした。両校は定期的に交換留学を行い、この14年間にフンボルトシューレからは85人が、県立国際高校からは70人以上の生徒がお互いの学校を訪れて交流を深めているそうです。

シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州というと、州都であるキールよりも、私はユーロ導入以前の旧50ドイツマルク紙幣の図柄であったリュウベックを真っ先に思い浮かべてしまいました。1987年ころにデュッセルドルフに住んでいた私は、週末になるとよく車を運転し、近郊の町にドライブに行ったものでした。ある日、バルト海に面するかつてはハンザ同盟の盟主として繁栄を誇ったリュウベックの、50マルク紙幣を飾るあのホルステン門をこの目で見たいと思い立ち、50マルク紙幣を片手に北へ北へと走った日のことを思い出しながら歓談していると、キーフマン会長の、「また皆さんと日本かドイツでお会いしましょう。」という挨拶が聞こえてきました。そうだ、今度はまだ行ったことのないキールに行き、独日協会を訪ねてみよう、大好きなドイツに思いを馳せ、楽しい午後のひとときに幸せを感じているうちに、集合写真を撮り閉会となりました。

ドイツビアフェスト2016（予告）

毎年好評をいただいています恒例の「ドイツビアフェスト」を今年も開催します。

日 時： 2015年8月6日(土) 18:00～20:00

場 所： ビアレストラン「ロイン」三宮店

次号にて詳しいご案内を致します。ご予約にお入れください。

今年も、ビールを飲みながら、ビアソングを歌いながら、
楽しい夏の一夜を過ごしましょう！

事務室からのお知らせ

新事務員紹介

5月末で井川伸子さんがお辞めになりました。協会の事務にお力添えをいただき、ありがとうございました。6月から中原佳世子さんと永丘恵子さんに事務を担当していただいています。よろしくお願いいたします。

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。会報の次回発送予定日は7月14日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越し下さい。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
6月18日(土) 14:00~	第151回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室 (19階)	当日参加可
6月18日(土) 15:00~	日独若者の「神戸再発見」 あじさい見物	神戸市立 森林植物園	6月16日(水)まで
6月21日(火) 14:00~	ドイツ文化サロン第11回 女性が支える国際交流	ユーハイム 神戸元町本店	6月20日(月)まで
6月25日(土) 12:45~	初夏の遠足	ドイツ村・オスモ&エー デル本社ショールーム	6月22日(水)まで
7月3日(土) 12:20~	外国人墓地見学会	神戸市立外国人墓地	6月30日(木)まで
7月16日(土) 14:00~	第152回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室 (19階)	当日参加可